

令和 7 年度

# 運営に関する計画

中間評価（全体会）

令和 7 年 10 月 22 日

大阪市立南住吉小学校

めざす子ども像	思いやりをもち、助け合える子 自ら学び、最後までやりとげる子 健康で、たくましい子 目標に向かって、みんなで協力できる子
学校教育目標	「自他を大切にする心、確かな学力、健康な体を基盤とした社会に貢献できる子を育成する」

## 1 学校運営の中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- (1) 安全・安心な教育環境の実現  
・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。
- (2) 豊かな心の育成  
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。  
・「自分に良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- (1) 誰一人取り残さない学力の向上  
・全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上をめざす。
- (2) 健やかな体の育成  
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上をめざす。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- (1) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進  
・1人1台端末を活かした学びの充実を図る。  
・児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見と迅速な対応に努める。
- (2) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり  
・働き方改革を推進し、過度な勤務時間の延長を防ぐ。
- (3) 生涯学習の支援  
・読書好きな児童の割合を向上させる。

## 令和6年度の総括と今年度の課題

### 現状と課題

昭和33年に開校した南住吉小学校は、多くの地元民から愛され地域の小学校としてその役割を担ってきている。最近は、子どもの数が減少し、大阪市の小学校でも再編統合や一貫校への編成替えが進んでいるが、本校は学校選択制を利用した校区外の入学希望者が増加し、住吉区で最も児童数の多い大規模校となっている。そのため、各家庭での学校教育に対する考え方や、様々な家庭環境の違い等により、日々の児童の教育活動において、複雑かつ困難な対応が続く状況が多くみられる。また、いじめ問題については、暴言等への対応の充実が求められ、日常的な会話や遊びの中にみられるいじめ行為への指導体制の充実が課題として認識されている。

このような現状から、生活指導面の見直しをはかり、規律面の整備と学校組織の強化を進め、子どもが安心して学校生活をおくるための取り組みを進め、安心安全な学校に向けた指導の効果が出てきている。さらに、令和6年度よりこれまで課題であった、暴言などへの対応として、「ことば」を大切にし、うれしい「ことば」を増やす取り組みや、「みんなのために」活動できる取り組みを進め、さらに子どもたちにとって安心安全な学校となるよう教育活動を進めてきた。学力・体力については、大阪市や全国と比較して、低い状況にある。

令和7年度の課題としては、いじめのない安心安全な学校づくりに向けたさらなる取り組みの深化充実を図るとともに、ICT機器の授業での活用を推進し、教員の授業力向上と児童の学力向上に向けた取り組みを。全教職員一丸となり重点的に進めていく。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に1回以上行う。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。  
〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。
- ・主幹学校司書との連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。

(様式 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</li><li>・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li><li>・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</li><li>・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</li><li>・望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に 1 回以上行う。</li></ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】</b> ⑩いじめへの対応 本校の「いじめ防止基本方針」を全教職員が共通理解をし、それをもとにいじめの未然防止といじめ対応を行っていく。また、基本方針を見直し、改訂すべきところは改訂し、より実践的かつ有効的なものにしていく。いじめアンケートをより有効的に活用する。そして、いじめ事象が起った際、組織として対応を図り、その指導を適切に記録しておく。また教職員のいじめに対する問題意識を高め、対応を強化する。	
<b>指標</b> 学期始めに、全職員で「いじめ防止基本方針」を熟読する時間を設ける研修会を開く。児童に対しては、「いじめについて考える日」に全校集会を開き、校長からいじめに対する講話をを行う。また毎学期に、各教科横断的にいじめにかかわる授業を行うとともに、「思いやり週間」実施することで、児童一人ひとりがいじめに対する考え方を深化させる。特に、言葉の使い方指導を重点的に行う。年間の教育活動を通して、規範意識の醸成や仲間を認め合う集団育成を行い、いじめを生みにくい環境づくりに努める。また教職員に対しては、いじめに関する研修会を数回開催する。いじめアンケートを実施後は、いじめ対策委員会を開催し組織としてアンケート分析を行い、早期対応を図る。また、事象が起った際は、学年や学校組織として対応し、事実確認や指導を記録・保管し、引き継ぎができるようにしておく。	B
<b>取組内容②【安全・安心な教育環境の実現】</b> ⑩不登校への対応 不登校の児童が登校しやすい学校環境を作る。また、関係機関との連携強化に努める。	B
<b>指標</b> 不登校の児童やその家庭と密で丁寧な連携を図るとともに、関係諸機関とも協力し、児童や家庭に寄り添い、児童に合った登校の形を組織としてできる限り実現する。	
<b>取組内容③【安全・安心な教育環境の実現】</b> ⑩問題行動への対応 南住吉小学校「学校安心ルール」に基づき、問題行動への適切な対応を行うとともに、問題行動の未然防止に努める。	B
<b>指標</b> 「南住吉小学校安心ルール」を年度初めに児童や家庭に周知し、年間を通して組織的にルールにのっとった一貫した指導を行う。また、児童には毎学期始めにそのルールを再確認するとともに、日々の生活指導にそのルールを適応する。また、問題行動が起きないよう、毎学期「生活点検週間」を実施するなどし、本校が特に大切にする10のルールの意識付けを行い、規範意識を醸成する。	B
<b>取組内容④【安全・安心な教育環境の実現】</b> ⑩児童虐待等への対応 家庭との連携を密にし、ヤングケアラーやネグレクトを含む虐待等についてカウンセリングマインドを持って対応する。また、区役所や子ども相談センター等の関係機関との連携を強める。	B
<b>指標</b> 児童の日々のようす（行動、発言、服装、体へのあざなど）を、しっかりと観察し、	

<p>気になることがあれば職員間で連携して対応する。毎週の学年打ち合わせ会、月に1回の生活指導部会や職員会議後のスクリーニング会議を通して児童共通理解を密に図る。また、関係諸機関とも連携をとりながら、対応にあたるようにする。</p>	
<p><b>取組内容⑤【安全・安心な教育環境の実現】</b>        ⑤防災・減災教育の推進        警備及び防災計画に基づき、消防署・警察署・区役所と連携し、防災に対する児童の意識を高める。また、各教科と関連付けて、防災・減災教育を進める。</p>	B
<p><b>指標</b>        火事、不審者、地震・津波への避難訓練を学期に1回以上実施する。また、様々な緊急・災害時に児童が安心して保護者と出会えるための引き渡し訓練を実施するとともに、防災教育の授業を実施する。</p>	
<p><b>取組内容⑥【豊かな心の育成】</b>        ⑥人権を尊重する教育の推進        様々な人権を尊重する教育を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。</p>	B
<p><b>指標</b>        各教科横断的に、マイノリティ（障がい者教育、国際理解教育など）を理解・尊重する学習や反戦・平和学習を計画的に実施し、豊かな心を育めるような個・集団づくりを進める。また、教職員は、年2回以上人権教育研修に参加し、内容の共有を図ることで、人権意識の向上に努める。</p>	B
<p><b>取組内容⑦【豊かな心の育成】</b>        ⑦インクルーシブ教育の推進        インクルーシブ教育を推進させるため、支援の在り方を工夫する。また、自校通級における指導や支援の実践・研究を進める。</p>	B
<p><b>指標</b>        児童理解の研修会や個別の支援計画の活用、実践報告、支担会および学年会への参加を計画的に行う。また、自校通級指導の実践及び研修を行う。</p>	
<p><b>取組内容⑧【豊かな心の育成】</b>        ⑧キャリア教育の充実        キャリアパスポートを利用し、年間を通してキャリア教育の充実を図る。</p>	B
<p><b>指標</b>        キャリアパスポートを学期初めに書くことで達成できる目標を設定し、学期終わりには振り返りを行うことで、自分の成長に気づき、自己有用感を高める。また、大きな行事を記載することで、行事を通して学級や学年の仲間と協力することや他者のために頑張ることの良さに気づけるようにする。</p>	

## 【安全・安心な教育の推進】

### 年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

- ① 生活指導部から毎月出ている児童報告文で児童の共通理解を図ることができている。また、教員対象にいじめに関する研修会を開催し、いじめに対する考え方や対応を深化することができている。児童に対しては、いじめについて考える日や思いやり週間を通して、言葉の使い方や人との関わり方を指導することができている。
- ② 不登校の児童が登校しやすい環境をつくりつつ、保護者とも連携を図り、学校の対応できる範囲内でその児童に応じた登校の在り方を今後も検討し、対応していく。
- ③ 各学級・学年で「安心・安全ルール」や「10のルール」にのっとり、日々生活指導を行い、大きな問題行動が起きないように努めている。さらに、毎学期に生活週間を実施することで児童一人ひとりに安定した生活基盤の定着を図っている。
- ④ 児童のようすを日々観察し、早期発見を心掛けている。また、毎週の学年打ち合わせで児童の様子を丁寧に共通理解し、それを記録に残している。
- ⑤ 計画的に引き渡し訓練や避難訓練を実施することができている。また、児童は訓練の意味を理解し、行動をすることがてきている。
- ⑥ 年間指導計画にのっとって進めることができている。人権についての研修も教職員が参加できている。
- ⑦ 自校通級指導の実践が進み、通級児童の指導が深まっている。また研修会を実施し、児童理解や指導支援の工夫が広がっている。しかし、個別の教育支援計画の活用が十分ではない。
- ⑧ 毎学期にキャリアパスポートを記入しているが、学期をとおしてその目標を活用しきれていない部分もある。

### 今後への改善点

- ① 引き続き学校としてトラブルの事象や聞き取り、指導内容などの記録を残していく。また、教員に対してのいじめ対応力の向上を図るとともに、児童に対してもいじめは許されないことを引き続き指導していく。
- ② 学校全体の不登校児童を把握し、特別支援的対応や生活指導的対応など分類し、組織として不登校に対応していくようにする。そして、引き続き不登校の児童が登校しやすい雰囲気や環境、さらにメンタルを下げずに明るく過ごしやすい働きかけを、保護者と連携しつつ整えていく。
- ③ 引き続き、「安心・安全ルール」「10のルール」「生活週間」を活用し、児童一人ひとりが自主的にルールを守って、みんなが安心して過ごせる学校になるように努める。また、大きな問題が発生した場合は学年や学校組織として対応を図れるようにする。
- ④ 引き続き、児童のようすをしっかりと観察し早期発見に努める。また、各担任が抱え込まないように、学年の先生を中心にたくさんの先生が観察の目を持ち、共通理解を図り、組織として対応していくようにする。
- ⑤ 引き続き計画的に避難訓練を実施していく。また、各教科横断的に防災・防犯意識を高める授業に取り組む。防災の日などの実施も踏まえて来年度検討していく。
- ⑥ 今後予定している人権的行事に計画的に取り組み、児童にとって有意義なものにする。
- ⑦ 個別の教育支援計画の活用を図る。通級指導の実践を広げるとともに、通級にかかわる研修会を行う。また、不登校児童について校内リソースの活用や、不登校児童の理解や対応の深化を図る。

- ⑧ 普段の児童のようすや学級で立てた目標などをキャリアパスポートに綴じていった方がより有効的に活用できそうなので、今後の使用方法も含め検討していく必要がある。今年度は現状を継続的に行っていく。

## 大阪市立南住吉小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。</li> <li>・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎主体的・対話的で深い学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルを活用しながら、各学年で身につけたい基礎・基本の学習事項を定着させる。</li> <li>・すべての教科領域で学習者用端末を活用し、子ども自ら学習への取り組み方を考え、対話しながら学習を進める授業の構築を図る。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <p>小学校経年調査で「授業で、パソコンやタブレットをどれくらい使っていますか」という問い合わせに対して、「週3回以上」と答える子どもの割合を50%以上になるようにする。</p>	
<p>取組内容②【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎英語教育の強化</p> <p>C-NET および中学校からの英語加配の先生との連携を強化し、小学校教員として英語教育に主体的に取り組む。また、モジュール授業、絵本・DVDなどの教材を有効に利用し、英語に親しむ機会を増やす。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が日常生活の英語を活用できるよう年1回以上の研修を行い、共通理解を図る。</li> <li>・週2回のモジュール授業の計画と実施、状況に応じて絵本・DVDの活用を進める。</li> </ul>	
<p>取組内容③【健やかな体の育成】</p> <p>◎体力・運動能力向上のための取組の推進</p> <p>専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるよう工夫する。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回全学年で運動に親しむ機会を設ける。</li> </ul>	
<p>取組内容④【健やかな体の育成】</p> <p>◎健康教育・食育の推進</p> <p>手洗いや清潔なハンカチ・ティッシュを携帯する習慣を身につけさせる。</p> <p>栄養・給食指導を通して、好き嫌いなく食べることの大切さを理解させる。</p>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回強調週間を設ける。</li> <li>・年2回、栄養指導の時間を設ける。</li> </ul>	

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析
① 心の天気を行うためにタブレットを使用している。また、デジタルドリルやらっこたん等のコンテンツをすることでタブレットの活用率は少しづつ増加している。しかし、デジタルドリルや授業での活用が十分できているとは言い難い。
② 教員が日常生活の英語を活用できるよう年1回以上の研修を行い、共通理解を図ることで、日々の英語教育の向上につながっている。学年によってはC-NETとの連携が取れていない場合があったり、週2回のモジュール授業を行える時と行えない時があったりするが、児童が英語に親しむ機会を増やすために、教員が主体的に英語教育に取り組むことができている。
③ ラジオ体操や運動会などに取り組み、他学年と運動に親しむ機会を持つことができている。
④ 月1回の清潔調べや強調週間を設けることでハンカチ・ティッシュを身につける習慣がついてきている。栄養指導を通して給食を残さず食べる児童が増えてきている。
今後への改善点
① 児童が対話しながら学習を進める授業の構築を図るために、スカイメニュー、teams、Google クラスルームを有効的に使えるようにしていく。また、すべての教科領域でタブレットを活用するためにはどのような方法があるのか、教師のスキルをあげる必要がある。
② 教員の基本的な英語力を身に着けていくための研修を継続的に行っていくとともに、一層、C-NETとの連携を図っていく。また、モジュール授業の時間を確保し、児童が興味をもって取り組むことができるよう、絵本やDVDの活用の仕方を模索していく。
③ 継続して取り組んでいく必要がある。
④ 強調週間の期間だけでなく、日々の声かけや学年だより等を使って生活習慣の定着を図る必要がある。

(様式 2)

大阪市立南住吉小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</li><li>第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80% 以上にする。</li><li>主幹学校司書との連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。</li></ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</b> ①データを根拠に児童の心の状況把握を推進 「心の天気」の入力を習慣化し、教員は児童の心の状況把握に努める。	B
<b>指標</b> ・教員がスクールライフノートで毎日「心の天気」確認する。	
<b>取組内容②【人員の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ①働き方改革の推進 会議時間の短縮、校時の短縮、余剰時数の削減、定時退庁日の実施、校務分掌の分担など、教職員の負担が軽減できるように働き方改革を推進する。	B
<b>指標</b> ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。	
<b>取組内容③【生涯学習の支援】</b> ①学校図書館の利用促進 図書委員会による読書推進の活動、図書館開放、学級図書の改善、読書ノートの取り組み等を通して、読書活動と図書環境の充実を推進する。	B
<b>指標</b> ・本市調査における、「学校図書館貸出冊数（児童一人当たりの年間貸出冊数）」を50冊以上にする。	

## 【学びを支える教育環境の充実】

### 年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析

- ① 「心の天気」の入力は習慣化しつつある。また、教員も心の状況把握に努め、状況が気になる児童へは声かけをしている。
- ② 余剰時数の削減、校時や会議時間の短縮、スクールサポートスタッフの配置などにより、負担軽減や放課後の時間確保は進められている。しかし、校務分掌によって業務量に差があり、低学年の時間の確保、人員不足による負担増など課題は残る。
- ③ 図書委員会による読書活動の推進、図書館開放、司書による読み聞かせ、学級図書の拡充、教員によるおすすめ本紹介、読書ノートなど読書活動と図書環境の充実を推進している。

### 今後への改善点

- ① 「心の天気」については学級によって入力状況に差があるため、教員側が意識を高くもって引き続き取り組んでいく。
- ② 校務分掌・クラブ・委員会など主担に任せるのではなく、担当者全員で分担し合うという意識で業務にあたる。また、人員確保は急務となっている。
- ③ 今後も本に親しむ機会をつくり、児童が本に興味・関心をもてるよう推進していく。また、読書に消極的な児童へは、前向きに取り組めるように支援していく。